

SFTSの恐怖と

マダニ対策

犬、猫、人にも…
マダニによるSFTSの危険！



NO!マダニ

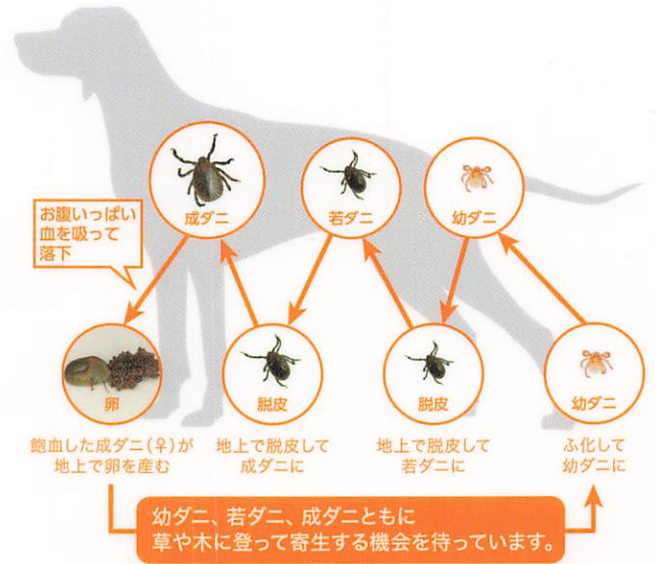
SFTSによる死亡のリスクに備える



SFTSとは...

■SFTS(重症熱性血小板減少症候群)

SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染し、犬や猫だけでなく、人にとっても危険な感染症です。最悪の場合、死に至ることもあります。



SFTSに感染した場合の症状

	犬・猫	人
症状	発熱、活動性低下、食欲低下・廃絶、嘔吐など	初期症状は発熱、筋肉痛、頭痛、消化器症状(嘔吐、腹痛、下痢)など
臨床所見	血小板減少、白血球減少、総ビリルビン値の上昇、黄疸など	血小板減少症、白血球減少症が特徴的に認められ、肝酵素、電解質異常を伴うことが多い
経過	急性疾患であり、発症から数日以内に重症化、死亡することもある	潜伏期間は6日～2週間程度

出典: IASR Vol. 40 p116-117:2019年7月号「動物におけるSFTSV感染の疫学調査」
※イヌに関する詳細な発生状況は不明であるが、ネコと同様であると考えて良いと思われる。



SFTSのリスク

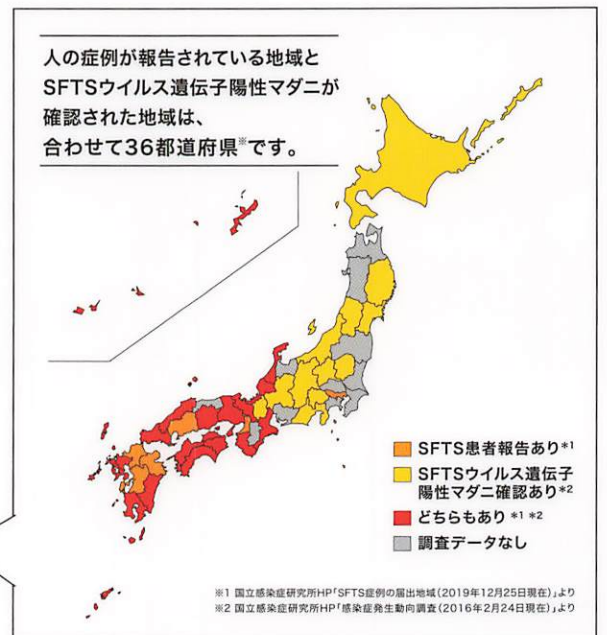
全国へ広がるSFTSの被害

SFTSのリスクは西日本が中心ですが、人や動物の移動によって全国に広がっています。

SFTSの原因となるマダニの種類によっては、年間通して活動しているものもあり、注意が必要です。

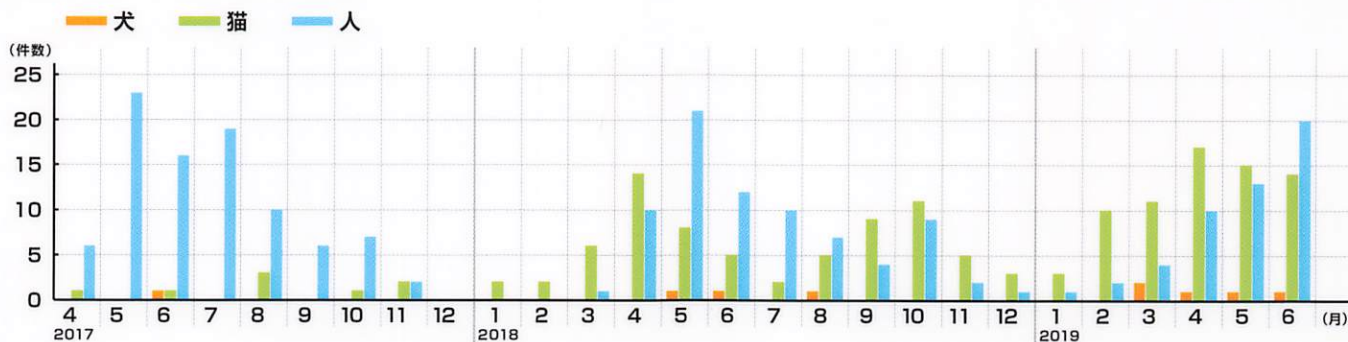
人への被害は2019年12月までに全国で497症例が報告され、うち70人が死亡しています※。

※国立感染症研究所HPより(2019年12月25日現在)



一年を通して確認されているSFTSの被害

■月別のSFTS発生件数



■SFTSによる致死率



犬…29%



猫…60~70%



人…20%

犬の致死率は猫よりも低いです。感染犬はウイルスを排泄している可能性があります。

参考・引用元: 国立感染症ホームページ「重症熱性血小板減少症候群(SFTS) IASR Vol. 40, No.7(No. 473), p118-119 July 2019 厚生労働省ホームページ「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するQ&A」



愛犬・愛猫を守るための対策

SFTSに対する特効薬はありません。

唯一の対策は...

「通年のマダニ対策」です!

〈マダニ対策例〉

犬



- 散歩後のマダニのチェック
- 散歩後のブラッシング
- 駆除薬の定期的な投与

猫



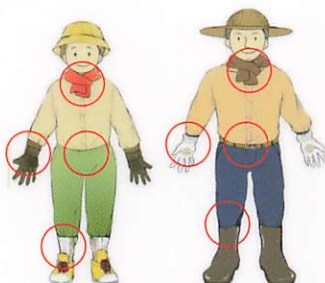
- 散歩後のマダニのチェック
- 散歩後のブラッシング
- 野良猫が近くにいるかチェック
- 駆除薬の定期的な投与

人



- 忌避剤、防御服
- 野外では肌を露出しない

- 首にはタオルを巻くかハイネックのシャツ着用
- ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せる
- シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れる
- シャツの裾はズボンに入れる
- 農作業や草刈などでズボンの裾は長靴の中に入れる



「頭」、「耳」、「目のふち」、「お腹」、「足の指の間」、「背中」、「しっぽ」などをチェックしましょう。



※国立感染症研究所HP「マダニ対策、今できること」より

EmVet

zoetis

 **Boehringer
Ingelheim**

 **ZENOAQ**

YACN 横浜動物臨床研究会 横浜市獣医師会 DVMs

横浜市角笛会 麻布同窓会横浜市支部 ハマベッツ JAHA(公益社団法人 日本動物病院協会)

MaSACC 埼玉県獣医師会 静岡県駿東獣医師会
